

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ゆうゆう済民 岩手棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100139		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	グループホーム ゆうゆう済民 岩手棟		
所在地	〒028-4132 盛岡市済民字泉田178		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの役割の理解を深めながら、その人らしい暮らしが送れるように自立支援を大切にチームで支援をしている。職員の定着率も高く、継続的なサービスが行われやすく、利用者さん、家族さん、地域の方とも顔なじみの関係性ができつつある。毎月チームで課題をもちリーダーを中心に話し合い、質の高いサービス、職員のスキルアップを図っていく取り組みをしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年を期に、職員間で話し合いグループホームのこれまでの理念を「ゆうゆうと笑顔あふれる暮らし」とした。利用者へ寄り添い、利用者の要望等を聴き取っているほか、毎月家族へ届ける「ゆうゆうだより」を通じ利用者の生活状況をお知らせして意見・要請を伺い、お手伝いや趣味、日頃の身だしなみなど、利用者の意向に沿った介護サービスを提供している。コロナ禍のため、運営推進会議委員に事業所の運営状況や利用者の様子をお知らせした上で、コロナ禍対策や看取りに関する意見や提案等をいただき、業務に活かしている。また、職員との定期的な面談を行い、施設内でのバーベキュー開催、居室へのエアコンの設置などの業務や設備の見直しのほか、資格取得、連続した5日間の休暇などの勤務条件に関する要望・提案も具体化しながら、より充実した介護サービスを提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月3日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	そもそもの理念や方針の意味とは？という原点から学び直し、理念の見直しを行い会議の場でも共有している。	グループホームの役割やコミュニケーションのあり方等をテーマに、所内研修や話し合いを重ね、これまでの理念を見直し、今年度新しい理念を定めた。職員は、利用者に笑顔で対応し、心の通うお付き合いをしながら、理念を活かした介護サービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店などを日頃から利用したり、今年度はコロナの影響で地域の行事はほぼなかったが、例年は地域のゴミ拾いや敬老会、児童館の夏祭りへ参加してつながりを大切にしている。	コロナ禍のため、例年実施している家族や地域住民が参加するイベントや児童館児童との交流などを取りやめている。そのような中にあっても、地域包括支援センターの機関紙へ出稿したり研修会講師として職員が参加するなど、可能な方法で地域との繋がりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民対象の認知症サポーター養成講座を実施しており、今後もなんらかの形で協力をしていくことを包括支援センターなどと連携している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面会議も行うといった普段とは違ったことも多く、委員のメンバーも同じにはなかったが、事業所の状況などを共有して頂きながら、意見や助言があれば活かすように努めている。	運営推進会議は、2ヵ月毎に開催しているが、今年度は、コロナ禍のため書面会議の方式も採用した。委員の提案や意見等を議事録としてまとめ、次回委員会で報告するとともに、感染症対策などの提言を業務に活かしている。利用者家族には、開催の都度案内し可能な限り参加していたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員にも運営推進会議に参加して頂きながら、相談したり又は地域の方で抱えていることを包括支援センターに紹介したり、お互いの役割を理解し連携に努めている。	地域包括支援センターから、各種情報を得ているほか、市の行政情報は、文書、メール、ファックス等で入手し、要介護認定申請の際には、助言や指導も得ている。市主催の会議や研修会にも職員を派遣し、知識の習得等に努めている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3カ月に1回会議を実施、年2回の勉強会を行いながら、理解を深めることを継続している。	管理者ほか職員6名による委員会を設置し、議事録を作成し職員に周知している。「不適切ケア」事例について皆で話し合いを持つなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者への話し方や接し方など、見直すべき点を注意し合い日々の業務に活かしている。身体拘束の事例はない。転倒予防のセンサーを一部使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止のため、勉強会を行い、行動制限や不適切な関わりの段階で早めに気付き減らしていくように、個人、チームで取り組みをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば、関係機関とも相談しながら活用を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には分かり易い言葉を使うようにしたり、その時だけではなく、不明なことなどはいつでも聞いてほしいことを伝えており、可能な限り理解、納得していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんとは普段の関わりの中から確認している。家族さんには面会時には必ず訪問記入表を書いてもらうようにしており、意見や要望があれば可能な限り速やかに対応できることはしている。	家族の面会時や受診の際に聴き取るほか、面会記録簿のアンケート欄に要望等を記載いただいている。家族との接触機会が減っているものの、出来るだけ要望を把握して支援に活かすように努めている。利用者からの意見や要望も、過去の生活歴や興味等を把握し、日常の会話を通じて思いを聴いて実現できるように対応している。利用者のお手伝いや食事の要望にも対応している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や3ヶ月ごとのキャリアパス面談を行い、意見交換をして、管理者の判断ですぐに実現できることは行うようにしており、迷う場合は本社にも相談し検討をするようにしている。	管理者は、全体会議の席で職員から運営に関する意見や要望を聞く機会を設け、また、3カ月毎に職員と個別に面談して意見や要望等を聴き取り、勤務条件、イベント開催、施設の整備などに反映させている。職員とは日頃から要望等を聴き、職場環境の改善に努めている。昨年から実施している「5日間のリフレッシュ休暇」は、職員から好評である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算取得により、職員の能力や姿勢などを総合的に評価し、賃金改善に努めている。サービス労働はしないようにメリハリがつくように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は外部研修がほとんどなかったが、内部勉強会を実施したり、1ヶ月ごとにテーマを決めて取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会を作ることはほとんどできていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に最初は環境も変わり、全てが不安に感じているということを理解し、まずはこの場所、人は安心して大丈夫だと感じてもらえるように適度な距離感をもって関わることを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その時だけではなく、連絡をしたりして確認や思いを伺うようにしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報をもとに、担当ケアマネや本人、家族さんの話を伺いながら、課題や思いを把握して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんが生活をしていく場ということを念頭におきながら、一緒に行ったり見守りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り通院に同行してもらったり、電話をしたりとして、不明なことは家族さんに聞いたりしながら協力をしてもらえるように日頃から努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は一切できなかったが、本人や家族さんからの話を聞きながら、ホームに入居したからできないのではなく、可能な限りではあるが、いきつけの店や場所に行くことを職員だけではなく、家族さんにも協力をしてもらいながら支援している。	コロナ禍のため、利用者は、家族等との面会が出来ず、例年のような家族や馴染みの人との交流が出来ない状況にある。遠方の家族から「母の日のプレゼント」等が届く利用者もあり、今後も継続してもらえるよう事業所としても配慮し、また、かかりつけ医受診は、利用者が馴染みの人と交流できる貴重な機会にもなっている。例年の老人クラブ歌会、週2回のグランドゴルフ、児童館のみずきダンゴなどでの交流、利用者との買出しなどは、コロナ禍のため中止している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームは共同生活でもあることを職員は理解しながら、過度に介入しないように見守りを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人のことのみならず、介護のことで相談があれば気軽に相談をしてほしいことを伝えながら、必要性があれば関係機関にも相談をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その時の会話はもちろん大切だが、場所や関わる人によっても話すことが変わることもあるため、総合的な把握をするように意識している。	職員は、入浴時等の機会に利用者の話をじっくり聴き取り、行動や表情を観察するようにしている。職員が把握した利用者の希望等は、日誌に記録し職員間で共有している。新聞チラシを見て「食べたい」との声があれば、それを食材に用いている。利用者の前歴や知識を活かし、畑作業、調理、モップ掛けなどのお手伝い、編み物などの趣味を聴き取り対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや家族さんからも事前に話を聞きながら、新たに発見することも本人との関わりからみえることもある。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わる全ての職員で特に最初は、こまめに記録をしたり、共有をするようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者のみだけでなく、関わる全ての職員も日々の会話などからくみ取りながら計画を作成している。本人の状況が変化した際には、家族さんや医師など関係するかたの意見もとりいれて実情にあった本人の計画になるように努めている。	介護計画は、3か月ごとに見直している。居室担当が計画に掲げている取り組み内容についてモニタリングし、随時の利用者の変化は職員のカンファレンス会議で検討している。その上でケアマネが計画を取りまとめ、家族に説明し了承を得て、計画としている。かかりつけ医の指示等も計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を理解して、記録のための記録にならないように、支援にいかされるように改善しながら共有し、計画と実情がずれている場合は担当者へ相談するようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所だけで解決できないことは、地域の関係機関にも相談したりして柔軟に対応できるように努めている。			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人にとっての楽しみが継続すること、新たな楽しみが見つかるように幅広い視点をもつような意識をもっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は今までの医療機関を継続している。本人の状態によって適切な医療機関をすすめるようにしている。	入居前からかかりつけ医継続と入居後に協力医に変更した利用者は、概ね半数ずつとなっている。訪問診療は7名が受診し、受診記録を作成し家族に報告している。訪問歯科診療を利用している方もいる。訪問看護ステーションの看護師が利用者全員の健康管理を担っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結び、毎週の健康確認や介護職では対応できないことを相談し、対応をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には普段の様子などの情報を作成し、情報交換をしており、可能な限り早期退院できるように、家族さんにも協力をしてもらいながら連絡をとりあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携の指針の説明や意向を確認したり、状況に応じて話し合いをしている。ホームで看取りを希望される方、重度化したら病院や特養入所希望される方、それぞれであり、又その時によって気持ちが変わることもあるので柔軟に支援できるように都度話し合うことをしている。同時にホームで対応できること、できないこともお伝えした上で選択してもらっている。	入居時に利用者・家族に対し、「看取り指針」で事業所で出来ることを説明している。家族の意向により他の医療機関に移送した利用者もいるが、今年の2月から3月にかけて2名の看取りを行っている。事前に訪問診療の医師の協力で職員への「看取り研修」を行っている。看取りは、医師の協力を得ながらチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に救命講習を受けていたり、訪問看護や訪問診療で医師や看護師に助言をうけ、実際に対応したり不明な場合は関係機関に相談しながら実践力を身につける努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を定期的に全職員が行いながら、改善点を話し合うようにしている。緊急連絡網の見直しや、近隣の方にも訓練参加を依頼を検討している。運営推進会議で、委員の方に見学してもらい意見をもらうこともある。	夏に総合訓練を実施し、3月に夜間想定訓練を予定している。昨年は、運営推進会議の委員が訓練を視察し、助言等を得ている。ハザードマップで避難場所等を確認している。食料は3日分を確保し、ガスコンロ、反射式ストーブを備えている。	近隣住民の訓練への参加、支援の要請の実現を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ馴れしい声かけではなく、親しみのある声かけを意識しているが、まだまだタメ口のような声かけになってしまうことがあるので、個人、チームで改善に取り組んでいる。	個人情報、個別にファイルし、各棟で管理している。お知らせへの写真掲載や、地域包括支援センターの広報誌への掲載は、家族の了承を得ている。入浴や排泄への異性介助への要望に対応している。居室への入室、名前の表示など、利用者の意向を聴いている。失禁などは、利用者の心情を大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、利用者さんが考え行動していくことが基本原則であることを意識して関わりをもっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしてもすぐに対応できなかったり、職員の人数が限られている場合は、後日対応することを伝えたり、理解が難しい方もいるため、そもそも職員側の都合を優先することもなく、可能か限り利用者さんの暮らしを中心に考えて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで好まれていたものをそのまま持ち込んでもらったり、その方の趣向を把握しながらおすすめすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響で買い物はできていないが、以前は一緒に食材の買い物へいき、そこで旬の食材を実際に見て選び、そのまま料理と一緒に作り、片付けもできる、やりたい利用者さんで行っている。最近では広告をみたり、買い物へ行く前に聞いたりとしている。	職員が調理・献立を交替で担当し、利用者の協力(裁断、盛り付けなど)を得て食事を提供している。季節感のある旬の食材を確保し、山菜、うなぎ、おせちなど、食事を楽しみなものになるように工夫している。敬老会のお弁当、夏の焼き鳥、新聞チラシの食材などの要望にも対応している。家族からのおやつ差入れもある。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態の合わせて、食べ易いものへ変更したり、病院とも相談しながら可能な限り口から食べられるように工夫して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の歯磨きが習慣になっていない方、億劫になっている方もおり、職員も一緒に歯磨きをしたり、夜は義歯の洗浄、必要な方は訪問歯科や歯科受診で対応をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の状態にもよるが、常時オムツを使用している方は現在おらず、夜はオムツでも日中はリハビリパンツに替えてもらい、トイレで用を足してもらえるようにしている。	利用者の排泄パターンを把握し、利用者の行動や様子を観察しながら声掛けをし、トイレ誘導をしている。トランクス、リハビリパンツ、おむつ、ポータブルトイレ等、利用者の状態に応じて選択している。尿取りパッドやティッシュを併用し、排泄の自立に向けた支援を行っている。介助は見守り、ズボンの上げ下げ程度である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かせる方には、散歩や体操を一緒に行ったり、難しい方もいるので、乳製品や医師にも相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には午後に入っているが、見守り程度でお風呂に入ることが可能な方は、夕方や夜に入る方もいる。その方にもよるが週に2~3回ペースが標準的で、お風呂は職員と1対1にもなるため、普段話さないようなことも話をしたりとリラックスした時間となるようにしている。	入浴は、午後の時間帯に週2回を基本としながら、利用者の希望に合わせて柔軟に対応している。就寝前の入浴は、見守り程度で自立入浴できる方としている。一人一人が単独で入浴し、利用者の希望や状態を検討しながら、介助している。車椅子利用者は、家族の了承を得て、シャワー浴としている。浴室の入り口に暖簾を下げて雰囲気を出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一律に就寝時間を決めるのではなく、今までの生活に合わせて支援をしている。又、利用者さん同士でも話をしており同じ時間帯に休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認したり、不明なことは医師や薬剤師に助言を求めたりしながら知識を深め、薬を飲んでいることでどうなっているか日々の様子を医師に伝えながら適切な量になるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までやってきたことの継続はもちろんだが、ホームに入居してから新たに発見される力も多々みつき、情報だけに捉われずに、まずはやってみたい気持ちがあれば声をかけたり、やってみようかなという気持ちになるように関わりをもっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩は継続しているが、遠くへいき何かをみでくることは今年度は難しい状況であった。紅葉の時期に少人数でドライブにいき、季節を感じてもらったり、気分転換になるようには努力している。	天気の良い日は、周辺を散歩する方、畑作業や玄関の掃除をしている方もいるが、一人一人の希望に沿った外出支援は、コロナ禍により、実現できない状況にある。秋に八幡平方面の紅葉狩りドライブに少人数で出かけた。今出来ることの範囲で利用者に季節を感じていただく支援に努めており、誕生日には、利用者と職員がマンツーマンで、馴染みの場所に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布をもっていたい方は、本人、家族さんとも話しをしながら大金は遠慮してもらい可能な限り安心できるように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、基本的にはホームの電話を使ってもらい自由に電話ができるようになっていく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きく環境の変化をすると逆に利用者さんが混乱してしまうこともあるため、その時の状況に合わせてながら、テーブルやソファの配置を変えて安心できるような空間づくりを意識している。ホームの外で取れた花や職員がもってきたものを一緒に飾ったりしている。	大型の窓や引き戸により太陽光が入り、上下可能な照明で明るさを調整し、落ち着いた雰囲気を出している。明るく広々としたロビーには、食事用テーブル、ソファが配置され、利用者は、テレビや趣味などで寛いでいる。壁には、啄木の短歌や活動の写真などが貼付され、季節のクリスマス飾りや生花などもある。温度は床暖房で、エアコン、加湿器で管理され、快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけではなく、玄関にもソファなどを置き、静かに外を眺めている時間を作れるように工夫している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	できるだけ、自宅で使っていたものを持ち込んで もらうようにしており、可能な方は本人と相談したり しながら配置を考え本人が落ち着けるような場 所になるように努めている。	床暖房と扇風機で温度管理されており、順次、エ アコンを整備している。西日対策にすだれを設置 している。ベッド、クローゼット、床頭台が設置さ れ、ハンガー、テーブル、テレビ、位牌、家族写 真、ぬいぐるみなど、馴染みのものが持ち込まれ ている。利用者の意向に沿った配置となってお り、居心地の良い場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	場所が分からなくなる方も多く、分かり易いような 掲示をしている。利用者さんが分かりやすい場所 に必要なものを置いて自分たちでできるようにし ている。		